

相談支援つうしん

＜第35号＞平成29年4月14日
湘南養護学校 支援連携部
相談支援係—教師編—

新年度が始まりました。あわただしい日々が続いていると思います。今年度も、校内のさまざまな実践や特別支援教育に関わる情報を発信させていただきますので、よろしくお願いいたします。

～ピクトグラムの活用～

ピクトグラムとは、文字で表す代わりに簡略化された図を用いて、視覚的に情報を伝えるための記号の総称のことです。現在では、さまざまな案内図や標識など、誰もが1日に1回以上は目にしていると思いますが、ピクトグラムがこれほどまでに広まったのは、1964年の東京オリンピックがきっかけだったそうです。言葉の通じない外国人観光客が困らないようにすることを目的に導入され、今では世界中で活用されるに至っています。



さて、本校ではさまざまな場面で視覚支援の一環として視覚的なシンボルや身振りサインが活用されています。コミュニケーションをはじめとして、スケジュールや場所、活動などの理解のために、言葉の理解や表出が難しい子どもに利用できるようにしています。ただし、初めて見るシンボルやサインは当然理解ができないため、まずはそれが何を表すか教えていかなければなりません。効率的にマッチングを図るためのコツがいくつかありますので、以下の点を参考にいただければと思います。

- ① 本人にとって意味のある事柄(好きなこと、大切なこと)から始める
- ② すぐにマッチングさせる
- ③ マッチングの順序は“覚えてもらいたいこと”→意味のある事柄(好きなこと、大切なこと)
- ④ 何度も繰り返したり、生活になじみのあることから始める

① 本人にとって意味のある事柄(好きなこと、大切なこと)から始める

子どもに覚えてもらいたいことはたくさんあります。しかし、こちらが覚えてほしいことと子どもが覚えたいことは必ずしも一致しません。まずは、子どもにとって意味のあることが何であるかできるだけたくさん見つけます。食事に関することや感覚遊び、シールや褒められることなどがそれに当たります。これらはさまざまな学習活動を進める際の好子/強化子(ご褒美)となります。

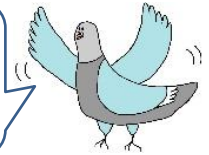
② すぐにマッチングさせる

例えば、“着替え”を表すカードを子どもに示してから5分後に着替えを始めると、カードとそれが表す事柄との結びつきが弱くなります。マッチングはできるだけ即座に行います。教室で確認し、移動時にも声をかけ、着替え直前にも見せたりするとよいでしょう。



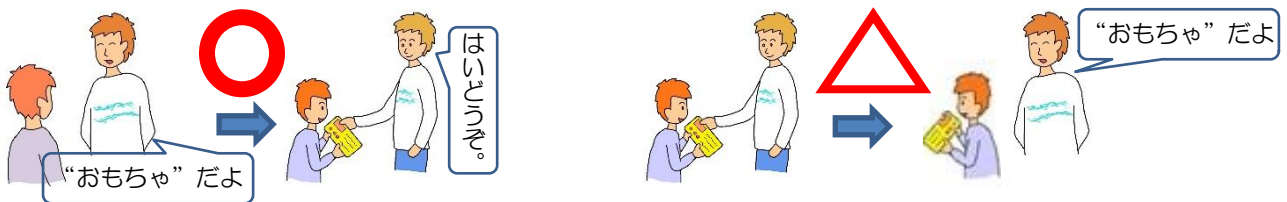
また、通常は矢印(→)の順番で行うことが多いと思いますが、これを全く逆の方向から行う方法があります。これを逆行連鎖化(backward chaining)といいます。手順のあることや段階的な指導を行うときには有効な手立てのテクニックの1つになります。詳しくは相談支援つうしん②をご参考に。

ハトを用いた研究によると、刺激間の結びつきは1分を越えると急激に落ちることが知られています。人間はハトより複雑なので同じように考えることはできませんが、即時強化をするに越したことはないでしょう。応用行動分析では、“**目指せ0秒!**”と言われることもあります。



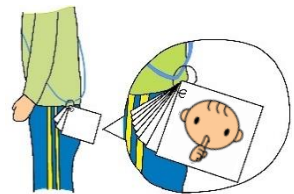
③ マッチングの順序は“覚えてもらいたいこと”→意味のある事柄(好きなこと、大切なこと)

子どもが好きな遊びを通して、“おもちゃ”という言葉教えたいときには、おもちゃを渡す前に「おもちゃ」と声をかけてから渡すようにします。先におもちゃを渡してしまうと、子どもはおもちゃの方に意識が移るので、言葉が入りにくくなります。できるだけ覚えてもらいたいことを先に提示して、即座に大好きなおもちゃなどを渡すようにします。



④ 何度も繰り返したり、生活になじみのあることから始める

1日に1回しかやらないことよりも、日に何度も経験したり使ったりすることの方が定着も早いです。職員の中には、さまざまなシンボルカードを常に持ち歩いている方もいます。学校生活のさまざまな場面を指導の機会と捉える姿勢は、専門性の1つだと思います。



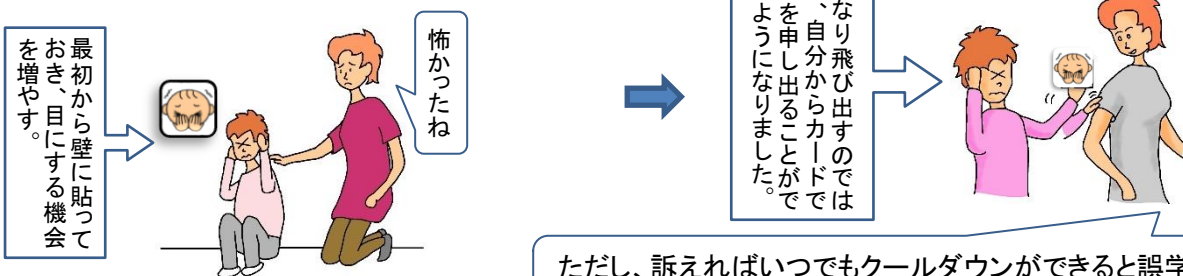
～校内の風景～

ちょっと高度かも

シンボルやサインは理解することも重要ですが、それ以上に重要なことは“発信”のツールとして使うことです。今回は小学部のAさんに対する実践をご紹介します。



音声言語を持たないAさんは、大きな音や声がとても苦手です。そこで、“大きな音が怖い”という気持ちを表すカードを自分で選べるように指導を試みたのですが、Aさんのパニックが激しくて、とても適切なカードを選ぶことができませんでした。そこで、Aさんがパニック時によく行くスポットに**カードをあらかじめ掲示しておく**、常に目に触れるようにしたところ、教室の中でも自発的にカードを選んで先生に気持ちを伝えてクールダウンを行えるようになりました。パニックなどで不安定なときにはなかなかカードの使い方を学習できませんが、教室内で教えることに囚われず、状況を逆算して最終地点から介入を試みています。これも逆行連鎖化の1つの応用と言えるかもしれません。



ただし、訴えればいつでもクールダウンができると誤学習することがないように、慎重に状況を見極めて指導中です。